

特殊詐欺の認知状況(令和2年11月末)

～11月は4件の被害を認知～

1 県内の特殊詐欺の認知状況 (令和2年11月末現在)

- 被害認知件数は31件 (前年同期比-1件)
- 被害額は約1億456万円 (前年同期比-約9,380万円)

2 令和2年11月中の認知状況

- 被害認知件数は4件 (前年同月比±0件)
- 被害額は約326万円 (前年同月比-291万円)
- 手口は

「架空料金請求詐欺 2件」 「還付金詐欺 1件」
 「融資保証金詐欺 1件」



3 11月の特殊詐欺事案

県内での還付金詐欺被害の発生は、平成27年の36件をピークに年々減少し、昨年(令和元年中)は発生がありませんでしたが、「もってこいネットワーク通信第60号」でお知らせしたとおり、県内で今年初めての還付金詐欺被害を認知しました。

被害状況は、市役所職員やコールセンター職員を装った詐欺の電話で、約75万円をだまし取られたものです。

そのほかにも、市役所職員を装った還付金詐欺の予兆電話がかかってきており、今後も年末にかけて同様の不審電話がかかってくるのが予想されますので、十分注意してください。



4 被害状況など

～被害者の年齢・性別構成～

年齢	令和2年11月末(人)		
	男性	女性	計
0～19	-	-	-
20～29	2	-	2
30～39	-	-	-
40～49	3	3	6
50～59	2	1	3
60～64	4	1	5
65～69	2	2	4
70～79	3	1	4
80～89	2	5	7
90～	-	-	-
合計	18	13	31
うち65歳以上の高齢者	7	8	15

～特殊詐欺全体の被害金交付形態～

交付形態	令和2年11月末 件数
振込型 (犯人が指定する口座に振り込ませる)	13
現金手交型 (犯人が直接現金を受け取る)	4
現金送付型 (郵便や宅配便などで現金を送らせる)	5
電子マネー型(コンビニで電子マネーを購入させる)	6
キャッシュカード手交型	2
収納代行利用型(コンビニ決済)	-
キャッシュカード窃取型	1
合計	31